

基準1. 使命・目的等
領域: 使命・目的、教育目的

・点検項目の番号は、①②は日本高等教育評価機構の大学基準です。①②は本学独自の項目です。

- 基準1: 16行目～ (使命・目的等)
- 基準2: 96行目～ (学生)
- 基準3: 320行目～ (教育課程)
- 基準4: 430行目～ (教員・職員)
- 基準5: 551行目～ (経営・管理と財務)
- 基準6: 656行目～ (内部質保証)
- 基準7: 712行目～ (大学ブランディング戦略)
- 基準8: 820行目～ (次年度の人事計画と予算要求方針)

2023、2024年度

薬学部

中長期計画	<p>□薬学部(薬学科)は、次の使命・目的、教育研究目的を掲げ、実施する。</p> <p>(使命・目的) 医療人としての教養と倫理観及び薬剤師としての確かな専門知識・技能を身に付け、医療や社会のニーズに対して強い責任感と探究心を持って対応し、自らの能力と専門性を高めていくことができる人材を育成することを目的としている。</p> <p>(教育研究目的) 1. 薬学の確かな知識・技能とともに幅広い視野をもって医療の最前線で活躍する薬剤師を養成する。 2. 医療人としての倫理観・使命感とともに豊かな人間性に基づいて行動する薬剤師を養成する。 3. 科学的な思考力および問題解決のための実践力をもって多様な科学関連分野で活躍する人材を育成する。 4. 豊かな創造力をもって医療の発展に貢献する人材を育成する。 5. 向上心をもたれず自己研鑽を続ける人材を育成する。</p> <p>□学部の目的や教育研究目的は必要に応じて適宜検証は行っていくが、現在の学部の目的、教育研究目的を継続していく。 昨年と同じ</p> <p>(2024年4月追加) □改定される薬学教育モデル・コア・カリキュラムに沿って教育研究目的、教育ポリシーを再考しながら見直し、本学部の教育プログラムを見直し構築していく</p>
--------------	--

2023、2024年度

薬学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	中長期計画に記載したように、使命・目的及び教育目的を具体的かつ、明確に設定している。
年度目標	来年度施行の新モデルコアカリキュラムに沿って使命・目的及び教育目的を見直す。
年度報告	2023、2024年度 改訂モデル・コア・カリキュラム(令和4年度版)に準拠し、かつ社会のニーズに対応できるよう、教育目的の改訂を行った(2023年度実施)。2023年度に改訂した教育目的も意味・内容は具体的かつ明確に設定している(2024年4月開催薬学部自己点検委員会) 2024年度入学生から新しい教育プログラムが開始された。2024年度2年生以上は旧教育プログラムを実施中である。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2023年度、2024年度学生便覧(新旧の薬学部の教育目的) ②福山大学HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/course/pharm/pharm-policy/ ③令和6年度第1回自己点検評価委員会議事録(240422)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230510)
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	「使命・目的」、「教育研究目的」は、本学部が掲げた養成すべき薬剤師像を明確に示しており、本学部の個性・特色を明示している。
年度目標	来年度施行の新モデルコアカリキュラムに沿って使命・目的及び教育目的を見直す際に、本学部の個性・特色を明示するように検討する。
年度報告	2023、2024年度 2023年度に改定した教育目的には、「社会で求められる役割を認識」「患者及び生活者に寄り添いながら医療、保健、福祉に貢献」「豊かな表現力及びコミュニケーション力」「他者と協働」「公衆衛生の向上に貢献」などのこれまでになかった新たな個性・特色を明示している。2024年度入学生より新教育カリキュラムを開始した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2023年度、2024年度学生便覧(薬学部の教育目的) ②福山大学HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/course/pharm/pharm-policy/ ③令和6年度第1回自己点検評価委員会議事録(240422)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	使命・目的、教育研究目的については、社会の要請や背景の変化に対応していることを自己点検・評価委員会、薬学部幹事会、薬学部教授会で確認している。
年度目標	現状を維持
年度報告	2023、2024年度 2023年度から、薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループにおいて、社会の要請や背景の変化について検討し、それに対応できるよう教育目的を改訂した。この内容は、自己点検・評価委員会、薬学部教授会において適切であると確認している。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：社会の要請や背景の変化とは具体的に何を指すのか？ 回答：文部科学省が改訂した「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」や「改訂モデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）」は、社会の要請や背景の変化に基づき改訂されている。この改訂に伴い教育目的を見直すことによって、社会の要請や背景の変化に対応している。具体的には、社会の要請や背景の変化についての重要項目をカリキュラムワーキンググループで検討し、教育目的に組み込んでいる（基準1-1-②参照）。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録 ②令和6年度第1回自己点検評価委員会議事録（240422） ③薬学部教授会議事録（22年度第13回）（23年度第7回） ④薬学教育モデル・コア・カリキュラム令和4年度改定版
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230510)
2023、2024年度 薬学部	
中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持を得ていますか。
現状説明	使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持を得ている。
年度目標	現状を維持
年度報告	2023、2024年度 2023年度に改訂した教育目的は、薬学部教授会において教職員の理解と支持を得て承認された。薬学部の使命・目的及び教育目的は、毎年第1回薬学部教授会で教職員の理解と支持を得ている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録(23年度第7回) (23年度第1回) (24年度第1回)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	薬学部の教育研究目的は、大学要覧や学生便覧に記載して大学構成員に周知している。 薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	2023、2024年度 2023年度に改訂した薬学部の教育目的は、2024年度の学生便覧に記載して大学構成員に周知している。また、大学案内ではQRコードで読み取れるようにするとともに薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2023、2024年度学生便覧 ②2024年度大学案内 ③福山大学HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/course/pharm/pharm-policy/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	本学部の使命・目的及び教育研究目的を着実に実行することを中長期計画に掲げており反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部自己点検評価書（2023、2024年度版）
次年度の課題と改善の方策	2025年度に作成する中長期計画に2023年度に改訂した薬学部の教育目的を反映させる予定である。
委員会コメント	特にありません(20230509)
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	本学部の使命・目的及び教育研究目的は、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アセスメント・ポリシーの4つのポリシーに反映している。
年度目標	見直しの際に、再度ポリシーに反映しているか確認する。
年度報告	2023、2024年度 2023年度に改訂した薬学部の教育目的を踏まえて、カリキュラムワーキンググループにおいてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー、アセスメント・ポリシーを改訂した。したがって、教育目的はこれらのポリシーに反映している。これを薬学部教授会で検討、確認し承認した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録 ②薬学部教授会議事録(23年度第7回)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230509)

点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性を取っていますか。
現状説明	使命・目的及び教育目的に沿って学部内の研究室と各種委員会で教育研究組織を構成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	2023, 2024年度 2023年度に改訂した薬学部の教育目的は、現在の教育研究組織の構成と整合性が取れていることをカリキュラムワーキンググループにおいて確認している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230510)
2023, 2024年度	薬学部

基準2. 学生
領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2023, 2024年度 薬学部

中長期計画	<p>○学生支援</p> <p>□全学の各種委員会に薬学部教員から委員を選任し委員会会議に参加するとともに、薬学部内でも各種委員会を組織し、研究室やクラス担任を中心とした全教職員と連携して学生生活支援体制を整備し、運営する。</p> <p>□薬学部独自の教育支援であるSA(Student Assistant)・メンター制を充実する。</p> <p>□学生指導費などを利用して、学生の活性化を促し、教育の充実を図る。</p> <p>□学修体制の整備のため、FD・SD研修会、実務実習支援などを教員と職員等で協働して実施する。</p> <p>□学習支援の一環として岡山SP研究会の模擬患者の派遣や外部講師の派遣を依頼し、活用していく。</p> <p>□薬学部の6年間の教育課程は薬剤師教育というキャリア形成を基盤としており、キャリア教育を実施する。</p> <p>□学外体験型学習を円滑に実施するために、1年次に麻疹等の抗体検査を実施する。</p> <p>○学修環境の整備</p> <p>□必要な学修環境の整備と適切な運営・管理の方針は教職員で共有し、問題点については改善を要望する。</p> <p>□講義や実習(課題研究等含む)で利用する器具・機器等の更新を計画的に実施する。</p> <p>□学生・教職員の安全確保の観点をもって劇物・危険物等を管理するとともに安全管理教育を実施する。</p> <p>○学生の意見・要望への対応</p> <p>□学修支援・学修環境・学生生活などに関する学生の意見・要望について、研究室やクラス担任を中心とした全教職員による相談、対応、助言、指導を行い、収集された意見を関連委員会に伝えて対応する。</p> <p>昨年度と同じ</p> <p>2024年度自己点検・評価 薬学教育評価機構より、学生に不利益がないように、成績に関する異議を申し出る仕組みを改善する(疑義の申し出先を授業担当教員以外にも設定する)必要があることを指摘された。2024年度から、成績に関する異議申し立て先については、科目の担当教員に加えて、担任、副担任、薬学部教務委員を加えることにした。このことは、新年度オリエンテーションにおいて、全学生に説明した。</p>
2023, 2024年度	薬学部

2023, 2024年度 薬学部

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーを策定し、ホームページで公表している。 2024年度自己点検・評価 2023年度に改訂した教育目的を踏まえて、2023年度にアドミッション・ポリシーを改訂した。アドミッション・ポリシーは、2024年度の学生便覧に記載して大学構成員に周知している。また、大学案内ではQRコードで読み取れるようにするとともに薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持できた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧・2024年度大学案内 ②薬学部ホームページ ③薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230512)

点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	学科教育プログラムの達成度でアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証している。ブレイスメントテストや学生の体験学習（実務実習など）の成果をまとめた報告書等でも検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	薬学部IR委員会にて、入学選抜ごとの留年率やストレート卒業率等の解析を行っている。現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①IR委員会議事録 ②2024年度実務実習報告書 ③2024年度ブレイスメントテスト結果報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230512)
点検項目	④ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	入学生受入れ状況を検証していて、原因を分析している。 本学部入学生：2019年度（108名）、2020年度（104名）、2021年度（101名）、2022年度（103名）、2023年度（106名）、2024年度（103名）。入学定員未充足である（定員：2023年度まで150名、2024年度より110名）。 全国的な私立薬科大学（6年制）志願者：2019年度（83,196名）、2020年度（76,576名）、2021年度（67,717名）、2022年度（70,238名）2023年度（67,727）、2024年度（）。 本学部志願者：2019年度（369名）2020年度（406名）2021年度（360名）2022年度（365名）2023年度（357）、2024年度（330）。
年度目標	引き続き情報を収集する。 2023年度補学薬学部入学生は、少なくとも前年と同様で、大きく減少することはまぬがれた。
年度報告	2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：全国的な私立大学の志願者数の推移と比較して、福山大学の志願者の推移はどのようになっているのか。 回答：全国的な私立大学の志願者数は減少しているが、都市部の志願者は現状を維持している場合が多い。一方、福山大学を含めて地方私立薬科大学の志願者数は減少している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和6年度福山大学入学手続状況表
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230512)
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	入学定員に沿った適切な学生受け入れ数を維持できていない。 本学での学修状況について、文科省ホームページに掲載されている入学生に関するデータをまとめ（私立薬科大学の学修状況（ストレート進級・卒業・国家試験合格））、参事の高校訪問時に本学の教育の特長等の説明を依頼している。 中国四国地区の高校生セミナーに教員を派遣し、教育内容の特色を伝え広報活動を行っている。 学生の体験学修成果をまとめた報告書を出身高校へ送付し、手紙を添えて大学での学修成果を高等学校へ伝えている。 積極的に学生の活動や教員の研究活動を学長ブログや薬学部ブログに掲載し、紹介している。
年度目標	入学定員削減を検討している。広報活動を続けていく。 本学薬学部は、学生の面倒見がよいことが評判になっている。また新しい未来創造館で研究を行っており、科学研究費獲得が増加している。これらを広めてブランド化をめざす。
年度報告	入学定員に沿った適切な学生受け入れ数を維持するため、2024年度から定員を150名から110名に減少させた。2024年度入学生も定員を充足することはできなかったが、前年度より減少することは免れた。参事の先生の協力を得て、広報に努めた。入学定員削減について考えた。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：入学定員に変動はあるのか。また、年度目標に「本学薬学部は、学生の面倒見がよいことが評判になっている」とあるが、根拠は何か。 回答：入学者数は2019年度より100～110名を推移していることから、令和6年度より入学定員を150名から110名に変更した。学生の面倒見がよい根拠としては、教育懇談会やオープンキャンパスにおける保証人からのコメント、参事による高校訪問で高校教員からのコメントに拠る。
達成度	B
改善課題	定員を充足する。
根拠資料	①令和5年度福山大学入学手続状況表
次年度の課題と改善の方策	本学薬学部は、学生の面倒見がよいことが評判になっている。また新しい未来創造館で研究を行っており、科学研究費獲得が増加している。これらを広めてブランド化し、広報を充実させる。
委員会コメント	特にありません。(20230512)

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	本学の各種委員会活動に委員あるいは幹事として参画することで教職協働を推進しており、委員会メンバーは福山大学諸委員会構成員名簿で学内で公表している。 学部内ではFD・SD研修会、実務実習支援、薬学部学内合同企業説明会、白衣授与式などを教員と職員が協働して行っており、薬学部ホームページ等で公表している。また、FD・SD研修会は学内外で公表し周知している。 学外での体験型学習（早期体験学習、コミュニケーション交流学習、実務実習など）を滞りなく実施するために、教職員が協働して対応にあたっている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学諸委員会構成員名簿 ②福山大学薬学部ブログ (https://www.fukuyama-u.ac.jp/course/pharm/cat/pharm-blog/)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230508)
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	学生の評価が高い5・6年次生が後輩の勉強や生活の相談相手になるメンター制度を設けて実施している。 事前学習で5年次生がSA (Student Assistant) となって4年次生の学修を支援している。 白衣授与式など実施し、実務実習に向かう5年生のモチベーションを向上させるとともに、低学年の学生の学修意欲向上を図る。 事前学習やPCC OSCEで、岡山SP研究会の模擬患者の派遣を依頼し、有効に活用している。 学修支援の一環として、外部講師の派遣を依頼し、活用している。また、模擬試験等を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：現状説明内「外部講師の派遣を依頼」は、具体的にどのような職種に依頼するのか。 回答：医師、薬剤師、予備校講師、治験コーディネーターなどに依頼している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①事前学習、pccOSCE模擬患者派遣 ②薬学部令和6年度スチューデントアシスタント報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230508)

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	薬学部は薬剤師養成を目的にしており、全教育課程で実習、演習、ガイダンスなどキャリア教育を実施している。 1年次に「薬学入門Ⅰ」「薬学入門Ⅱ」の授業で、地元の病院、薬局、ドラッグストア、製薬企業、卸業に実際に出向かせ、社会における薬剤師を含めた薬学出身者の仕事を見学させ、薬学生としての自覚を持たせると同時に進路選択の一助としている。 5年次に行われる「実務実習」では、直接社会で働く薬剤師に接し、観察し話すことにより薬剤師としての覚悟を醸成でき、富士ゼロックスの実務実習指導・管理システムを利用して、効果的にキャリア形成支援をしている。 薬学部では「早期体験学習実施委員会」「実務実習委員会」「薬学部就職対応委員会」「薬学部教務委員会」「学務委員会」などの委員会においてキャリア形成支援が有効に運用されている。 共通教育科目のキャリア教育科目の「キャリアデザインⅠ」（1単位必修）は「薬学入門Ⅱ」と相互に関連して開講している。 インターンシップの情報を掲示等により学生に周知し、積極的に参加できるよう支援している。 これらの学外体験型学習を円滑に実施するために、1年次に麻疹等の抗体検査を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①富士ゼロックスの実務実習管理システム ②薬学入門授業資料
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230426)
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	2020年度 卒業者数128人、内定者数100人、大学院進学者1人、その他 27人 2021年度 卒業者数132人、内定者111人、その他21人 2022年度 卒業者数123人、内定者数113人、大学院進学者1人、その他 9人。 9月卒業者8人、内定者3人、その他5人。 大学院博士課程修了者1人、内定者数1人。 就職委員会が職種と就職率を収集して、総合的に検証している。
年度目標	引き続き情報を収集する。
年度報告	情報を収集した。 2023年度 卒業者数108人、内定者数100人、大学院進学者2人、その他6人。 9月卒業者2人、内定者1人、その他1人。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①卒業生・修了生進路一覧
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230426)
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	薬学部の教育課程は薬剤師養成教育というキャリア形成を基盤としており、学部全教職員で6年間を通して資格取得を支援する体制を整えている。また、インターンシップは薬学部就職対応委員会を通して学生に周知する体制を整えている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧p168-180
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230426)

点検項目	㉑ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	薬学部就職対応委員会を設置し、就職に関するオリエンテーションの実施や進路にかかる進捗状況の把握と就職情報の発信を行っている（ゼルコバ）。 研究室主宰教員が就職対応委員と連携して学生の進路指導を行っている。 全学的に、保証人就職懇談会、合同企業説明会、また本学部卒業生を中心に各業種に関する説明会、就職体験発表会などを随時開催し、企業研究、自己分析テスト、面接対策、グループ面接対策、エントリーシート対策等のガイダンスを実施している。 1年を通じて就職内定率を調査している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 2024年度は、4年次生、5年次生を対象に日本病院薬剤師会の武田泰生会長の特別講義を実施した。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：卒業生の多くが薬局に就職しており、病院希望者が少ない現状を踏まえ、中小病院、および地域医療における病院の役割についても周知することが好ましい。 回答：薬局または病院のどちらかに偏ることなく情報提供を行っている。令和6年2月26日には、日本病院薬剤師会会長の武田泰生先生を招き「薬剤師の軌跡と未来—病院薬剤師の魅力と求められる職能—」と題し特別講義を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①企業就職懇談会資料 ②保証人就職懇談会資料 ③薬学部特別授業資料（2025年2月20日）
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230426)

2023、2024年度 薬学部

中点検項目 2-4. 学生サービス

点検項目	㉒ 学生生活の継続のための経済的支援を実施していますか。
現状説明	日本学生支援機構、地方公共団体や財団・企業関係の奨学金を学生課で紹介しているので、学部では学生から相談があった場合、学生課にいて相談するよう指導している。 入学時の成績優秀者や各年度の成績優秀者には福山大学独自の奨学金制度があり、対象者には奨学金を維持するよう指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧p256-262 ②学生委員会資料（奨学生リスト）
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230506)

点検項目	㉓ 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	ハラスメント発生防止のための規定は全学的に整備されている。 薬学部よりハラスメント対応委員会委員に教員を選任し、かつ2人の薬学部教員が相談窓口となるハラスメント相談員となっている。学生は学部、所属を問わずいずれかの相談員と相談することができる。 毎年のオリエンテーションで薬学部学生委員が全学生にキャンパスハラスメントおよび相談員について説明し周知し、気軽に相談できるように配慮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持できた。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：相談件数はどの程度か。 回答：全学で年間5人程度の相談がある。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧p264-269 ②ハラスメント防止委員会令和6年度活動報告 ③新年度学生オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230506)

点検項目	㉔ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	認知症カフェ、劇団危防、プロジェクトM等の活動への参加を促している。また、大学祭等の行事へ積極的参加を促している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ学長室薬学部ブログ ②福山大学学友会第50回三蔵祭 ③学外指導届
次年度の課題と改善の方策	

委員会コメント	特にありません。(20230506)	
2023、2024年度	薬学部	
中点検項目	2-5. 学修環境の整備	
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。	
現状説明	講義室等の問題点については、教職員で共有し、薬学部事務室を通して改善を依頼している。 講義や実習（課題研究含む）等で利用する器具・機器等の更新を計画的に実施していく。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	A	
改善課題		
根拠資料	①2023、2024年度予算要求書	
次年度の課題と改善の方策		
委員会コメント	特にありません。(20230506)	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。	
現状説明	マルチメディア室1・2は、情報処理基礎、総合薬学演習など多くの講義演習で活用している。 実習・実験施設は、各実習、事前学習、課題研究などで活用している。 図書館分館や自己学習室などは学生が自己学習で活用している。 薬学教育支援システム（PESS）やマークシートリーダーを利用して教育の充実化を図っている。 実務実習では、富士フィルムの実務実習指導・管理システムを利用している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①共用試験実施原議書 ②富士フィルムゼロックスシステム	
次年度の課題と改善の方策		
委員会コメント	特にありません(20230506)	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。	
現状説明	キャンパス・アメニティスペースの確保やバリアフリー化などの教育環境の向上を「未来創造館」に設置してある。 34号館にも、学生の自習室、学生談話室（ラウンジ）が設置してある。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①未来創造館ニュース (https://www.fukuyama-u.ac.jp/news/43343)	
次年度の課題と改善の方策		
委員会コメント	特にありません(20230506)	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。	
現状説明	授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理しており、施設・整備上の問題点があれば、予算要求や薬学部事務室を通して要望している。	
年度目標	現状を維持	
年度報告	現状を維持した。	
達成度	S	
改善課題		
根拠資料	①2023、2024年度予算要求書	
次年度の課題と改善の方策		
委員会コメント	特にありません(20230506)	

点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	火災検知器などの防災・防火設備は、全学的な方針に従って整備点検を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①施設内の火災報知器点検記録・消火器交換記録など
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230506)
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	安全衛生管理委員会（その傘下の化学物質管理委員会）の方針に従って、毒物、劇物、特定化学物質は、化学物質管理支援システム（ケムマツ）により管理する。 危険物については、取り扱い責任者を定めた危険物倉庫で管理している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①化学物質管理支援システム（ケムマツ）データ
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230506)
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	薬学部防災安全対策委員会を組織し、避難経路の掲示などの取り組みを行っている。 安全衛生委員会に従って、オリエンテーション等で安全教育・啓発を行っている。 実習ならびに研究室ごとに日頃から安全教育を行っている。 災害時避難マニュアルは全学的に作成している。 防災訓練等を実施については全学的な取り組みに参加している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①構内掲示 ②新年度学生オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230507)

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行っている。これらの学生対応の中で、場合によっては学生指導費などを利用している。 クラス担任は、学年ごとに学年会議を招集して、情報を共有し問題点ある場合には学部教授会に諮り、内容に応じて関連委員会で対処する体制になっている。 2021年度に薬学教育評価機構が、学生に不利益がないように、成績に関する意義を申し立てる仕組みを改善するよう指摘した。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。2024年度自己点検・評価 薬学教育評価機構より、学生に不利益がないように、成績に関する異議を申し出る仕組みを改善する（疑義の申し出先を授業担当教員以外にも設定する）必要があることを指摘された。2024年度から、成績に関する異議申し立て先については、科目の担当教員に加えて、担任、副担任、薬学部教務委員を加えることにした。このことは、新年度オリエンテーションにおいて、全学生に説明した。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：現状説明内「内容に応じて関連委員会ででの対処する体制」とは、具体的に何委員か。 回答：学生委員会、就職委員会、教務委員会、保険管理センター（学生相談室）などがある。 2025年3月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：新年度オリエンテーションにおいて、全学生に説明したと報告されていますが、今年度の異議申し出や、異議が受理され、なんらかの対応が行われたのか、また、それらについて前年度と比較して増減があったのか検証は行われたのでしょうか。 回答：今年度及び前年度において、成績に関して学生からの異議申し立てはありませんでした。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①新年度オリエンテーション資料 ②配慮が必要な学生一覧
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230507)
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行うと同時に、学生の意見・要望を聞いている。 必要であれば保健管理センターに相談している。 収集した意見は内容に応じて関連委員会に伝え、対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①保健管理センター活動報告
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230507)
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	学部学生に対しクラス担任・研究室教員など全教員による相談、対応、助言、指導を行うと同時に、学生の意見・要望を聞いている。 収集した意見は内容に応じて関連委員会に伝え対応している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部内委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230507)

基準3. 教育課程**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

2023、2024年度

薬学部

中長期計画	<p>□薬学部のカリキュラムはコアカリに準拠しており、臨床の現場において生命に関わる薬学専門家として相応しい行動をとるために必要な教養や医療倫理観とともに専門知識と技能が修得できるようにする。</p> <p>□薬学部の目的を掲げて教育を行い、ディプロマ・ポリシーに沿った学生を輩出する。</p> <p>□ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの一貫性について、適切性を検証していく。</p> <p>□カリキュラムを実践していく上で、能動的学修が増えてくる。効果的且つ効率的に実施するための人的資源及び物質的資源を一層充実させていく。</p> <p>□アセスメント・ポリシーに沿って、学修成果の評価方法を策定したので、評価・検証を実施していく。</p> <p>□全国の学部長や教科担当教員の会議等には積極的に参加し、薬学教育の情報を幅広く得て、本学の教育に活かす。</p> <p>□教育課程を充実させるために、外部講師の利用、メンター制度の利用、入学者の基礎学力を把握するためにプレイスメントテストの利用、演習やe-ラーニング導入・改善、薬学教育支援システム(PESS)の利用など実施する。</p> <p>□体験型学習については、教育を充実させ、報告書にまとめ、その成果を公表し、検証していく。</p> <p>□学生実習などで、実験器具や機器等の整備して、効果的に教育を実施する。</p> <p>□実務実習では、ふるさと実習を推奨し、事前の施設訪問を行い、実務実習が効果的に行われるように対応する。また、現地でセミナーを1期につき原則2回開催し、教育効果を上げていく。</p> <p>□問題・課題を発見・解決する能力を醸成するために課題研究を充実していく。</p> <p>□共用試験に対応できるように事前学習を充実していく。そのために、模擬患者による教育を行うとともに、SA(Student Assistant)を利用する。同時に、模擬患者や模擬医師を養成し、さらに、評価者の養成を行っていく。共用試験の直前には、評価者、模擬患者、模擬医師対象にOSCE直前講習会を実施する。</p> <p>□本学部の教育目的である薬剤師養成に直結する国家試験の合格をめざす方を推進していく。</p> <p>□前コアカリによる教育カリキュラムを検証しつつ、2024年改定予定の新コアカリに向けたカリキュラムの構築を開始する。</p>
--------------	---

2023、2024年度

薬学部

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知していますか。
現状説明	2019年度に教育目的を踏まえて、より詳細に記載したディプロマ・ポリシーに改訂し、大学要覧、学生便覧、大学ホームページなどで公表し周知している。
年度目標	新モデルコアカリキュラムに沿ったディプロマ・ポリシーを作成し、学内外に周知する。
年度報告	新モデルコアカリキュラムに沿って作成したディプロマ・ポリシーを学内外に周知した。2023年度に改訂した教育目的を踏まえて、2023年度にディプロマ・ポリシーを改訂した。アドディプロマ・ポリシーは、2024年度の学生便覧に記載して大学構成員に周知している。また、大学案内ではQRコードで読み取れるようにするとともに薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧・2024年度大学案内 ②薬学部ホームページ ③薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)

点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定をどのように行い、学内外に周知していますか。
現状説明	学部教務委員会が原案を策定し、学部教授会で承認している。ディプロマ・ポリシーを踏まえたアセスメント・ポリシーや学修成果の評価方法を策定し、学部教授会で承認している。学生便覧に明記し、大学ホームページで公表している。
年度目標	新モデル・コアカリキュラムに沿ったディプロマ・ポリシーを作成し、それを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定を行い、学内外に周知する。
年度報告	新モデル・コアカリキュラムに沿って作成したディプロマ・ポリシーを踏まえて、単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定を行い、学内外に周知した。2023年度に改訂した新ディプロマ・ポリシーを踏まえた進級基準、卒業認定基準を薬学部教務委員会が作成し、教授会で承認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧 ②2023年度第7回薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用していますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、卒業認定基準は学生便覧、大学ホームページ等で公表し、単位認定、進級、卒業認定は学部教授会で議決し、全学教授会で承認しているので、厳正に適用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	①2024年度学生便覧 ②2024年度第11、12回薬学部教授会議事録(卒業判定会議・進級判定会議)
委員会コメント	現状説明2行目の「承認を受けている」を「承認している」と能動態に訂正してください(20230503)
2023、2024年度	薬学部
中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	2018年度に教育目的を踏まえて、ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラム・ポリシーを改訂し、大学要覧、学生便覧、大学ホームページなどで公表し周知している。 2021年度に薬学教育評価機構より、カリキュラム・ポリシーにおいて、1)主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の方法に関しても設定し、2)学習の質を重視し、学習・教授方法及び成績評価のための課題が意図する成果のために想定された学習活動に整合するように設定されることが望まれると、助言を受けた。また、カリキュラム・マップの理解に乏しい学生が多いことを指摘されている。
年度目標	新モデルコアカリキュラムに沿ったディプロマ・ポリシーを作成し、それに基づくカリキュラムポリシーを薬学教育評価機構の助言等を参考にしながら作成し、学内外に周知する。
年度報告	薬学教育評価機構からの指摘を受けて、2023年度にカリキュラム・ポリシーを改訂した。また、カリキュラム・マップについては、新年度オリエンテーションで学生にさらなる解説を行った。カリキュラム・ポリシーは、2024年度の学生便覧に記載して大学構成員に周知している。また、大学案内ではQRコードで読み取れるようにするとともに薬学部ホームページにも掲載して社会に広く公表している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度学生便覧・2024年度大学案内 ②薬学部ホームページ ③薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)

点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がより明確になるように、2018年度にカリキュラム・ポリシーを改訂している。
年度目標	新モデルコアカリキュラムに沿ったディプロマ・ポリシーを作成し、それに基づくカリキュラムポリシーを作成する。
年度報告	2023年度にディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを改訂した。両者の整合性については、薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループが確認している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録 ②薬学教育評価機構改善報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	2018年度に改訂したカリキュラム・ポリシーに従い、教育課程を体系的に編成している。 2021年度に薬学教育評価機構より、資質全体を俯瞰できるカリキュラム・ツリーを作成して薬学教育カリキュラムが効果的かどうか検証するよう改善指摘があった。
年度目標	新モデルコアカリキュラムに沿った、教育目標、4つのポリシーを策定し、それらに沿った教育課程を体系的に編成する。
年度報告	薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に対応するため、2023年度に3つのポリシーを改訂した。また、資質全体を俯瞰できるカリキュラム・ツリーを作成し、薬学教育カリキュラムが体系的で効果的であることを確認した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録 ②カリキュラム・ツリー
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施していますか。
現状説明	2022年度入学生を例にとると、卒業に必要な186単位のうち、24～29単位を共通教育科目で取得しなければならない。単位構成比で約15%であり、十分と考えている。
年度目標	現状を維持しつつ、新教育カリキュラムについて、教養教育と専門教育のバランスを検討する。
年度報告	現状を維持しつつ、バランスを検討した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2023年度第7回薬学部教授会議事録 ②薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)

点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	<p>6年制薬学教育の導入とともに、アクティブ・ラーニングを積極的に実施しており、各学年においてSGDおよびPBLを取り入れた授業を導入している。特に体験型学習（早期体験学習・コミュニケーション交流学習・実務実習など）では外部施設を利用し、学習効果の向上を図っている。</p> <p>教授方法の工夫・開発は各担当教員に委ねており、各教員は授業評価アンケートの結果などを参考に、改善に向けて努力している。</p> <p>ゼレソン、ゼルコバ、Office365といったICT環境が整備されており、学習支援に利用している。</p> <p>薬学教育支援システム（PESS）を薬学教育に利用している。</p> <p>実務実習では、富士ゼロックスの実務実習指導・管理システムを利用している。</p> <p>学生実習などで実験器具や機器等の整備して、効果的に教育を実施している。</p> <p>実務実習に対応できるように事前学習を充実させる。そのために、模擬患者による教育を行ったり、SA（Student Assistant）を利用する。同時に、模擬患者や模擬医師を養成している。</p> <p>実務実習を行うためには共用試験を実施しなければならない。実施する上で、評価者の養成を行っている。</p> <p>共用試験の直前には、評価者、模擬患者、模擬医師対象にOSCE直前講習会を実施している。</p> <p>共用試験のCBTでは、34号館マルチメディア室のPCシステムを学習と試験に最大限活用している。</p> <p>実務実習では、ふるさと実習を推奨し、本学教員による施設訪問・セミナー等を行い、実務実習が効果的に行われるように対応している。</p> <p>学習支援の一環として、外部講師を利用している。</p>
年度目標	現状を維持
年度報告	<p>現状を維持した。</p> <p>2025年3月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：学習支援の一環として、外部講師を利用していると記載されていますが、外部講師を利用する場面や依頼する内容、外部講師の職種は何でしょうか。</p> <p>回答：利用場面として、生命倫理教育、薬剤師の職能に係わる教育、そしてフィジカルアセスメントの実技演習等が挙げられる。依頼する内容として、上記科目に関する講義・演習や実技指導がある。職種として、薬剤師、医師、住職、薬患者、並びに会社経営者が挙げられる。</p>
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度薬学部シラバス ②富士フィルム実務実習支援システム ③教育支援システム（ESS）
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	<p>文部科学省の中央教育審議会答申のガイドライン（2016年3月）に従い、ディプロマ・ポリシーへの到達度を評価するための卒業判定ルーブリック（課題研究ルーブリック、実務実習ポスター発表ルーブリック、PCCOSCEルーブリック等）を策定している。策定しているルーブリックの評価基準で特に大きい問題はないことを確認している。それらを活用して、アセスメント・ポリシーの基準で卒業の判定を行っている。</p>
年度目標	新モデルコアカリキュラムに沿ったディプロマ・ポリシーについてこれまでと同様に卒業判定できるように検討する。
年度報告	<p>現状を維持した。</p> <p>2023、2024年度もこの卒業判定ルーブリックを用いて卒業の判定を行った。</p>
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度第11回薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	3つのポリシーを踏まえた学科のアセスメント・ポリシーを策定し、学修成果（ディプロマ・ポリシーの到達度）の点検・評価方法を構築している。 薬剤師としての実践的評価は実務実習後OSCE（PCC OSCE）を実施し、PCC OSCE実施委員会で検証している。 2021年度に薬学教育評価機構より、資質の形成敵評価を行う上で、GPA以外の多面的な評価法を構築するよう、改善指摘と助言があった。
年度目標	現状を維持しつつ、新モデルコアカリキュラムに沿った4つのポリシーとそれを踏まえ、かつ薬学教育評価機構の助言を参考にした点検・評価方法を確立する。
年度報告	現状を維持しつつ、新モデルコアカリキュラムに沿った4つのポリシーが適用される入学生の学年進行に伴い随時、点検・評価方法の確立にむけて検討中である。 2023年度の三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価は、大学教育センターが構築した学科教育プログラム評価によって実施した。この教育プログラム評価の運用については、大学教育センター運営委員会で検証し、2024年度から4段階評価を10段階評価に変更することとなった。また、薬学教育評価機構のGPA以外の多面的な評価法を構築するようとの改善指摘に対応するため、薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループにおいて、学生による資質（中項目）の自己評価ルーブリックを作成し、2024年度入学生から実施することとなった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①資質（中項目）の自己評価ルーブリック ②薬学部教務委員会カリキュラムワーキンググループ議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(230501)
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施していますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	科目レベルの学修成果の点検・評価方法として使用している授業評価アンケートとその結果のフィードバックは継続している。 アセスメント・ポリシーに基づき、学生の学修成果（ディプロマ・ポリシーの到達度）の点検・評価および学部教育プログラムの点検・評価を実施している。学生の学修成果については、学修成果リーダーチャートを用いて形成的評価を実施し、学部教育プログラムについては、学科長が点検・評価を実施している。 2021年度に薬学教育評価機構より、学生による授業評価アンケートの内容に、カリキュラムの中で該当科目の位置づけの評価に関する質問事項等を追加し、教育課程及びその内容、方法の適切性について検証するよう助言があった。さらに、教育プログラムに対する評価の達成度を判定する基準を見直すように助言があった。
年度目標	現状を維持しつつ、ひきつづき薬学教育評価機構の助言にそって、学生の授業アンケートをみなおし、教育課程の内容、方法の適切性について検証できるよう検討する。さらに教育プログラムの判定基準について見直す。
年度報告	現状を維持した。 薬学教育評価機構の指摘は、両方とも大学教育センターの案件である。授業評価アンケートの質問項目追加については、現在の質問項目とは質が異なるものであり、他学科の了承が得られるか不明であるためまだ同センターには提案していない。教育プログラムに対する評価の達成度を判定する基準については大学教育センターに提案した。同運営委員会で協議したところ、まずは現在の4段階評価から10段階評価への変更、資質（中項目）及び資質（中項目）への科目の重みづけの見直しを行うことし、基準は現状を維持することとなった。 2024年4月の自己点検評価委員会において外部評価者の質問：現状説明にある授業評価アンケートの頻度と、その対象授業は何か。 回答：前期と後期で各教員1科目ずつ実施し、科目の選定は薬学部では各教員に任せている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート、フィードバック報告書 ②薬学教育評価機構改善報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(230501)

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2023、2024年度

薬学部

中長期計画	<p>□薬学部教授会で承認された薬学部内諸委員会を設置し、その委員会で薬学部の教学に関する重要事項の原案を作成し、薬学部教授会に提案し、承認をえて実施しており、権限・役割を適切に分散し、責任を明確化して教学マネジメントを機能性をたかめながら実施しており、今後も継続していく。</p> <p>□薬学部教員数は、大学設置基準の教員数(31名、うち教授16名)、実務家必要教員数(6名)を充足している。が、より充実した教育をめざしていくため、今後も、教員の増員を要求していき、6年制薬学教育の役割が大きい実務家教員数を、薬学部教員数の2割程度に維持していく。</p> <p>□薬学教育評価機構から「改善すべき点」として、「教員一人当たりの学生数が20名を超えている」ことが指摘されており、今後改善するために若手を中心とした教員の補充を要望し実施していく。さらに、薬学部内での女性教員の割合が少ないので、出来るだけ女性教員を採用する努力をする。</p> <p>□教員の資質向上のために、全学的なFD・SD研修会には積極的に参加するように全教職員に促す。また、薬学部内でも年に数回FD・SD研修会を実施しており、今後も継続して実施していく。</p> <p>□薬学部実務家教員の学外研修制度の策定について検討する。</p> <p>□研究に関しては、全体的に停滞気味なので、活性化するように促していく。また、研究助成金などの情報については多くの教員が申請できるように学部内で共有していき、多くの教員が申請するように促していく。</p> <p>□研究成果については、学会等で発表し、学会誌やなど科学誌に投稿し発表している。発表している研究をまとめた薬学部研究年報を今後も毎年発行して、全員に配布していく。</p> <p>昨年と同じ。</p>
--------------	--

2023、2024年度

薬学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されている。薬学部においては、学部長の他学部長補佐1名、学科長2名を配置し、薬学部の教学マネジメントを実施しており、学部長は適切にリーダーシップを発揮している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	特に改善すべき課題はなく、現状を維持する。
委員会コメント	特になし(20230424)
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	薬学部教授会で承認された薬学部内諸委員会を設置し、その委員会で薬学部の教学に関する重要事項の原案を作成し、薬学部教授会に提案し、承認をえて実施しており、教職員間で権限・役割を適切に分散し、責任を明確化して教学マネジメントを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部内委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	特に改善すべき課題はなく、現状を維持する。
委員会コメント	特になし(20230424)

点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	学生課、教務課、就職課などの事務職員のほか、助手のサポートによって学科の教学マネージメントを高めている。大学院生を非常勤助手に採用し、運営関連の業務、教育サポートと研究の分野において改善に努めているが、「働き方改革」に基づく就業状況の変化に対応するための人的補充がないために、教職員に加わる負担が増え、役割を明確化できなくなってきた状態である。少なからず教学マネージメントに影響を及ぼしている。職員の役割の明確化に努め、教学マネージメントの機能性を高める努力をしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教授会議事録 ②非常勤助手要望書 ③薬学部内委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	引き続き教学マネージメントの機能性を高める努力をしていく。
委員会コメント	特になし(20230424)

2023、2024年度 薬学部

中点検項目 4-2. 教員の配置・職能開発等

点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	改訂モデル・コアカリキュラムを基盤とした講義・実習・演習の科目を設定して、それぞれの科目には相当する資質をもった教員を配置している。 定年や移動により欠員が生じたときには公募し、応募してきた者について選考委員会を立ち上げ審査している。そこで必要とする資質を有しているかを見極めた上で、その科目の担当教員として採用するようにしている。教員の昇進は、規程にみあう教員がいる場合実行していく。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 2025年3月の自己点検評価委員会において外部委員からの質問：公募資料の右の「実務家」は「実務科」のことでしょうか?同様に B462、B464 の「実務家教員数」は「実務科教員数」のことでしょうか。 回答：医療現場で薬剤師の実務をされていた方が大学教員になった場合、「実務家教員」と呼ばれています。文部科学省が策定した大学設置基準でもそのような名称が使用されています。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①公募資料(実務家、物理) ②選考委員会報告書(松岡先生、半田先生)
次年度の課題と改善の方策	引き続き適正な教員配置を目指していく。
委員会コメント	特になし(20230424)
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	薬学部教員数は現在42名(うち教授20名)で大学設置基準の教員数(31名、うち教授16名)は満たしており、また、実務家教員数(8名)は必要教員数(7名)を充足している。 薬学教育評価機構の基準としては、「教員1人当たりの学生数が10名以下が望ましい。」現在、教員1人当たりの定員学生数は21.4名である。
年度目標	現状を維持
年度報告	2024年現在、薬学部教員数は現在38(うち教授20名)で大学設置基準の教員数(31名、うち教授16名)を満たしており、また、実務家教員数(7名)は必要教員数(7名)を満たしている。現在、教員1人当たりの定員学生数は22.6名である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部教員名簿
次年度の課題と改善の方策	教員1名あたりの学生数をなるべく20名以下になるよう、引き続き努力していく。
委員会コメント	特になし(20230424)

点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	全学で開催されるFDに参加するように薬学部教員に促している。また、薬学部の教員を対象として、教育面および研究面の資質の向上に資すると考えられるテーマを設定し、年間複数回の薬学部・大学院FD・SD研修会を開催している。 若手薬学教育者ワークショップに教員を派遣し、学習指導方法の改善につなげている。 薬学部実務家教員の学外研修制度が策定されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部FD委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	薬学部実務家教員の学外研修制度が策定されたが、制度利用者はまだいない。
委員会コメント	特になし(20230424)

2023、2024年度 薬学部

中点検項目 4-3. 職員の研修

点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	全教職員のSD研修会を年に複数回実施し、できるかぎり参加している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①SD報告書
次年度の課題と改善の方策	大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを継続する。
委員会コメント	特にありません(20230429)

点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	以前から学部教授会等の会議資料を書画カメラとPCを利用し資料を少なくするように努めている。 事務処理における稼働中のファイル共有は、修正するが現状で利用している。データベースKarin、Office365 (SharePoint等) を活用し、教職員間において会議資料等のデータの共有化及び利便性の向上を図っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Karin、Office365 (SharePoint等)
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230429)

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	教員は、事務作業や会議等にかかなりの時間を取られており、研究する時間は十分ではない。 未来創造館での研究施設設備の設置、管理体制についてさらに検討していく。 課題研究等で利用する機器更新については、現在年次計画（原案）を提出しており、今後それに基づきながら機器更新を要望していく。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2023、2024年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	引き続き機器等の更新を要望していく。
委員会コメント	特にありません(20230430)
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用を行っていますか。
現状説明	研究倫理の遵守について、研究倫理委員会、不正防止計画推進室があり、研究倫理に関する学内規定を整備している。 不正防止計画推進室の指導のもと、研究関連ガイドブックが作成され、eラーニングを使うなどして、全教職員、学生に対してコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施している。 これらは、コンプライアンス推進責任者により定期的にモニタリングしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス教育・研究倫理教育実施報告書 ②モニタリング実施報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230430)
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行っていますか。
現状説明	学部内のルールに沿って資源の配分を行っている。 運用状況については薬学部事務室で管理し適正に行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部予算配分書
次年度の課題と改善の方策	引き続き学部内のルールに従って運用していく。
委員会コメント	特にありません(20230430)
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)を整備し、周知していますか。
現状説明	公的研究費の運営・管理は責任体系が構築されており、コンプライアンス教育にて周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス教育・研究倫理教育実施報告書
次年度の課題と改善の方策	引き続き、コンプライアンス教育を行っていく。
委員会コメント	特にありません(20230430)

基準6. 内部質保証**領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2023, 2024年度

薬学部

中長期計画	<p>□組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクルは問題なく運用されているため、現状を維持する。</p> <p>□薬学教育評価機構の第三者評価に適合できるよう問題点の抽出と改善を実施していく。</p> <p>□入試種別、GPA、進級、共用試験、卒業、国家試験など、学生指導に役立てることを念頭に、データの収集・解析を継続する。解析結果は教授会で報告し、学生指導に役立てていく。</p> <p>□学修成果の評価方法を策定したので、今後、学生の学修成果を評価するとともに、本学部における教育の在り方の適切性を評価していく。</p> <p>□研究成果については、学会等で発表し、学会誌やなど科学誌に投稿し発表している。また、学内では研究年報を今後も毎年発行し、関連施設等に配送することなど計画している。</p> <p>昨年と同じ</p>
-------	---

2023, 2024年度

薬学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	福山大学自己点検・評価規程に基づき、質保証を検証する組織として、学部内に自己点検・評価委員会を設置している。委員長は学部長が務め、学部内責任者となっている。毎年、上記委員会が学部自己点検・評価書及び計画書を作成し、それらを全学自己点検・評価委員会が点検している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。薬学部内に内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①薬学部内委員会名簿 ②本自己点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230502)

2023, 2024年度

薬学部

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価を実施し、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	学部内に自己点検・評価委員会を設置して、自主的・自律的な自己点検・評価を実施している。これらの結果は、SharePointおよび福山大学ホームページにアップロードして学部教職員が閲覧、共有している。各教員が教育・研究・大学運営等に関しての目標を計画し、実績評価を行っている。研究成果については、学会等で発表し、学会誌やなど科学誌に投稿し発表している。発表している研究をまとめた薬学部研究年報を毎年発行して、全員に配布している。2021年度に薬学教育評価機構より、内部質保証について次の点について助言があった。1) 全学共通の自己点検ではなく、薬学教育プログラム自体を十分に自己点検・評価する。2) 標準修業年限内の卒業者の割合は十分に高いとは言えず、薬学部で学ぶための資質・能力を備えていない学生が入学していることが懸念されるので、さらに検証を行い、入学者受入れの改善・向上等を図ることが必要である。3) 自己点検・評価結果を学部全体の教育研究活動の改善と向上に反映する自己点検・評価委員会の体制を整備する。特に、カリキュラム編成、卒業論文の執筆、シラバスの記載などに問題点がある。4) 比較的深くないレベルの知識をレポートで評価することは適切ではない。
年度目標	現状を維持しつつ、薬学教育評価機構の改善・助言にそって、内部質保証の方法について検討していく。
年度報告	現状説明では、薬学部の自己点検・評価の内容は大学HPにアップしていると記載しているが、2022年度から、各学科の自己点検・評価の内容は大学HPにアップされていない(全学レベルのものしかアップされていない)。2025年度以降は、薬学部自己点検・評価結果を薬学部HPにアップする。 現状説明 1) について 2025年度から実施する予定である。 現状説明 2) について 薬学部IR委員会が入学選抜法と留年率、ストレート卒業率等との関連性や1年次のプレースメントテストを解析している。 現状説明 3) について 2022年度から、これまで別の委員会であった薬学部教務委員会と薬学部カリキュラム・教育評価検討委員会を統合し、新たに薬学部教務委員会が発足した。このとき、委員を新たに2名増員し、薬学部教務委員長が統合後の委員長として担当することとした。薬学部自己点検・評価委員会の13名の委員の中には、薬学部教務委員会の構成員が4名含まれており、スムーズな協議進行と改善に向けた活動が可能となった。以上の体制で2022年度から指摘事項の改善を試みており、漸次改善に向けて取り組んでいる。 現状説明 4) について これまでの旧DPの8つの資質を見直し、改訂モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)に対応した新たな新DPを2023年度に策定した。新DPでは、資質4「薬学の発展と医療の進歩に寄与するための研究能力」の中に薬学基礎知識に係わる資質(中項目)として資質4「基礎科学的知識」を設定した。この資質(中項目)8は「研究能力の基盤となる基礎科学的知識を身につける。」という観点で設定し、評価方法としては3年次までの基礎科学的知識の関連科目の成績から「資質(中項目)の修得度」を算出することとした。この新DPの資質(中項目)8とその評価は、2024年度入学生より実施し、評価方法については、関連科目の成績から算出した「資質(中項目)の修得度」や学生の自己評価などを踏まえて検討を続けていく予定である。 その他、薬学教育評価機構に指摘された、4つの改善すべき点と5つの助言についても対応した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①薬学教育評価機構「提言に対する改善報告書」
次年度の課題と改善の方策	薬学教育評価機構で設定された観点についても自己点検・評価を行う。また、その結果を薬学部HPにアップする。

委員会コメント 特にありません。(20230502)

点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	薬学部IR委員会を組織し、入試種別、GPA、進級、卒業、国家試験など、学生指導に役立てることを念頭に、データの収集・解析を行っている。また、プレイスメントテストの解析も実施している。解析結果は教授会等で報告し、学生指導に役立てている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2024年度薬学部IR委員会報告 ②2022年度入学生プレイスメントテストまとめ
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230502)
2023, 2024年度	薬学部
中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	学部が実施する自己点検・評価書は、全学で定められた書式を用いて作成している。この書式では、各点検項目について現状説明を記載し、当該年度に実施する年度目標を年度初めに記載する(P)。この年度目標に従って教育活動を展開し、年度末にそれを年度報告欄に記載している(D)。また、その目標に対する達成度をS、A、B、Cの4段階で自己評価している(C)。そして、次年度の改善課題と方策を記載している(A)。この自己点検・評価の結果は、全学自己点検・評価委員会に提出し、記載内容について点検を受けている。また、全学自己点検・評価委員会からコメントがある場合は、記載内容や根拠資料を適宜変更しており、このPDCAサイクルは適切に機能していることを確認している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①本自己点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230502)
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	研究不正防止計画推進室の学部委員により、コンプライアンスにかかわる具体策の実施、研修会等受講状況管理、モニタリング・改善指導、状況報告を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和6年度(2024年度)第3回(第520回)薬学部教授会議事録 ②福山大学コンプライアンス教育・研究倫理教育資料
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230502)

基準7. 福山大学ブランディング戦略**領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価 (本学独自基準)**

2023、2024年度

薬学部

中長期計画	<p>□本学が瀬戸内のほぼ中央に位置し、瀬戸内圏を主な研究活動の範囲としていることから、「瀬戸内の里海・里山学」をコンセプトとする研究や社会連携等を全学的に遂行することで、大学独自のブランドの確立を提案している。そのブランディング戦略には、4つの研究テーマが設定されており、以下のテーマに薬学部として本学ブランディング戦略に係わりながら、教育研究を実施していく。</p> <p>* 里山・里海のひと・まち・くらしの創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然と共生し、持続可能で住みやすいまち・くらし <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の新たな治療方法の開発 ・健康の維持・増進に関する研究 ・里のくらしを支える介護・看護支援システム <p>□薬学部独自のブランディング戦略としては、下記のような市民の健康維持のための貢献活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学教育を実施し、地域医療に貢献する薬剤師を輩出していく。 ・地域の企業・医療機関と密に連携し、地域医療に貢献していく。 ・産官学民が連携し備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献していく。 ・福山大学独自の教育を充実していくとともに、広く社会に周知していく。 ・グリーンサイエンス研究センターと連携して特別研究を実施する。 ・学生の体験型学習(実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学習)の学修成果を検証して報告書を作成し、本学の魅力を引き出し、他との差別化を図っていく。 <p>昨年と同じ</p>
--------------	---

2023、2024年度

薬学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	福山大学ブランディング戦略の目的、活動等の概略、推進のための研究プロジェクトについては、学部教授会で教職員に周知し、研究成果は、学部内に掲示、携わった学生を含む全学部に周知している。さらに福山大学ホームページ等に掲載し、周知に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。 薬学部ではブランディングプロジェクト(優先研究、特別研究)に採択されたテーマについて、研究代表者が未来創造館内に研究内容を掲示し「本研究は福山大学ブランディング事項の特別研究(または優先研究)として支援された研究である」と記載することで教職員、学生に周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/project_branding/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	地域医療に貢献できる薬剤師を養成している。 問題解決能力を有する薬剤師を輩出している。 地域の医療機関において治験審査委員などを派遣し、地域医療に貢献している。 地域の企業・医療機関などと共同研究を行い、地域医療に貢献している。 グリーンサイエンス研究センターと連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/project_branding/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)

点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	次に挙げる項目を実施することで、未来創造人を育成していく。 1) 地域医療のための講演会や学会・研究会に講師を派遣している。 2) 学内外組織との共同研究を実施している。 3) 地域の保育施設・高齢者施設と連携し、コミュニケーション交流学習を実施し、人間性を高めている。 4) 国際交流センターが主導するUCR集中英語研修への学生の参加を積極的に勧めている。 5) コンケン大学(タイ)薬学生の日本での薬学研修に協力している。 6) 薬局グループが企画している海外(アメリカ)のドラッグストア視察研修を勧めている。 7) 薬学部の研究プロジェクトが福山大学ブランディング事業に採択されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	コンケン大学(タイ)薬学生の日本での薬学研修以外は、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録 ②コミュニケーション交流学習報告書 ③ホームページ https://www.fukuyama-u.ac.jp/research/project/project_branding/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献するために、卒後教育研修会、福山大学薬学部・福山市薬剤師会シリーズ研修会や研究成果発表会などに取り組んでいる。 実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学習については、その成果を検証し、報告書を作成して、関係機関に送付している。 グリーンサイエンス研究センターと連携した研究を企画・実施し、研究成果を学会等で発表して評価を受けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度実務実習報告書、コミュニケーション交流学習報告書、早期体験学習報告書 ②グリーンサイエンス研究センター令和6年度成果報告会 https://www.fukuyama-u.ac.jp/news/105468/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません(20230503)
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の中核となる薬剤師を養成するため、地域と連携した教育研究を推進し、成果は薬学部教授会において薬剤師養成率と就職率で検証している。 実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学習については、実務実習委員会や授業担当者が報告書を作成して、関係機関に送付している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度実務実習報告書、コミュニケーション交流学習報告書、早期体験学習報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	・特にありません。(20230503)

点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	地域の中核となる薬剤師を養成するため、地域と連携した教育研究を推進し、成果は薬学部教授会において薬剤師養成率と就職率で検証している。実務実習、早期体験学習、コミュニケーション交流学习については、実務実習委員会や授業担当者が報告書を作成して、関係機関に送付している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度実務実習報告書、コミュニケーション交流学习報告書、早期体験学習報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	・特にありません。(20230503)
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	薬学入門、コミュニケーション交流学习、病院・薬局実務実習の科目で地域社会における学習を実施し、学問にのみ偏重しない全人教育に取り組んでおり、その成果を報告書で検証している。報告書は実務実習委員会や授業担当者が作成している。福山市や地域の薬剤師と連携して、健康ふくやま21フェスティバルや健康サポートフェア、府中まなびフェスタ等において地域住民に対して健康に係わる啓発に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2024年度実務実習報告書、コミュニケーション交流学习報告書、早期体験学習報告書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	・特にありません。(20230503)
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させる必要があります。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	地域の企業・医療機関等との共同研究を推奨している。また、いろいろな学外の研究助成についてはその情報をメール等で配信し、応募を推奨している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	・特にありません。(20230503)

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	生活習慣病の新たな治療方法の開発、健康の維持・増進に関する研究に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①薬学部研究年報 ②日本薬学会第144、145年会プログラム
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230501)
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	学内研究助成金と共同研究費、科研費、企業助成金などの獲得に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。科研費採択率の向上を目指し、薬学研究科の試みとして採択率の高い教員による申請書のチェックとフィードバックを実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①科研費及び研究費申請書
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230501)
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	各教員が個々に関連する学会において、その研究成果を発表している。 福山市薬剤師会などの外部組織と連携して研修会で最新の得られた知見を含め講演している。 各地の薬剤師会、医師会、学会などの研修会に講師として講演している。 研究成果発表会などで発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①日本薬学会第144、145年会プログラム ②Fukudai Mag https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/87708/ ③グリーンサイエンス研究センター令和6年度成果報告会 https://www.fukuyama-u.ac.jp/news/105468/
次年度の課題と改善の方策	
委員会コメント	特にありません。(20230501)